

会 議 録

会 議 名	令和元年度第 3 回野田市老人福祉計画及び介護保険事業計画推進等委員会		
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	1 消費税引上げに伴う低所得者の第 1 号保険料軽減強化について（公開） 2 指定介護予防支援業務の委託について（報告）（公開） 3 地域密着型サービス等（認知症対応型通所介護・介護予防認知症対応型通所介護）事業所の指定廃止について（報告）（公開） 4 地域密着型サービス等（地域密着型通所介護）事業所の指定更新について（報告）（非公開） 5 介護予防支援事業所の指定更新について（報告）（非公開）		
日 時	令和 2 年 2 月 26 日（水） 午後 1 時 30 分から午後 1 時 59 分まで		
場 所	市役所高層棟 8 階大会議室		
出席者氏名	会 長 金本 秀之 委 員 土田 隆司 渡邊 隆 駒崎 正 山中 邦枝 大用菜穂子 中村 綾子 白島 智子 山崎 美紀 山名 裕里 矢野 博 渡辺 亮 須賀田貞彦 谷田貝多吉 篠田恵美子 藤井 愛子 宮田恵美子 森田 邦子 三輪 秀民 小山三恵子 高橋 武宜 太田 央子 内藤 公子		
欠席委員氏名	委 員 秋田 茂 荒木なおみ 遠山 康雄 松田美奈子 小山 絹子 山本由紀子 丸山 克俊		
事 務 局	直井 誠（保健福祉部長） 田中 洋介（社会福祉協議会事務局長） 大月 聡（高齢者支援課長） 善方 浩子（高齢者支援課長補佐） 秋山 敦哉（高齢者支援課高齢者支援係長） 宮田 朋之（高齢者支援課いきがい施設係長） 渡邊 祐二（高齢者支援課主事） 安藤 剛行（介護保険課長兼地域包括支援センター長） 東風谷 一（介護保険課長補佐）		

	<p>田嶋 秀志 (介護保険課介護予防係長) 西野 寛史 (介護保険課介護給付係長) 中山 理恵 (介護保険課介護認定係長) 久保 祐介 (介護保険課地域包括支援センター主査) 岩澤 文 (介護保険課介護予防係主査) 林 晋也 (介護保険課主任主事) 石川よし子 (介護保険課主事補)</p>
傍 聴 者	1名
非公開の事由	地域密着型事業所等の指定等に関して、個人情報に関する箇所があること及び事業所の指定に関して公平な審議を行うため
議 事	令和元年度第3回野田市老人福祉計画及び介護保険事業計画推進等委員会の会議結果(概要)は次のとおりです。
金本会長	令和2年2月26日 午後1時30分、開会を宣言 新委員の駒崎委員、山中委員を紹介
介護予防係長	欠席の委員を報告した。 会議録作成のため録音機を使用することの了解を求めた。 非公開の審議について報告した。
金本会長	会議の成立を報告した。 発言及び会議の公開と傍聴について説明した。
金本会長	議題1 消費税引上げに伴う低所得者の第1号保険料軽減強化について 議題1について、事務局から説明を受けた。 質問等を委員に問うた。
金本会長	議題1について、了承として良いか。 <異議無しの声有り>
金本会長	議題2 指定介護予防支援業務の委託について 議題2について、事務局から報告を受けた。 質問等を委員に問うた。
白島委員	デイサービスの事業なのか。
介護保険課長	介護予防のケアプランの作成業務となる。
白島委員	新しい事業所なのか。
介護保険課長	新しい事業所である。

白島委員	ありがとうございます。
金本会長	<p>ほかに質問等を委員に問うた。 質問等無し。 議題3 地域密着型サービス等（認知症対応型通所介護・介護予防認知症対応型通所介護）事業所の指定廃止について 議題3について、事務局から報告を受けた。 質問等を委員に問うた。 質問等無し。</p> <p>議題4及び議題5は、野田市情報公開条例に基づき非公開 （事務局からの事務連絡後、追加質問有り。）</p>
矢野委員	<p>本日の議題への専門的な知見はないが、条例等で定められた 手続で進めており、異議はない。今後、各自治会の平均年齢が 65歳を超え、5年後には70歳を超える自治会がかなり増えてく ることが想定される。年を取ると認知症で悩まされる家庭が多 くなると思う。夫婦共働きで親が認知症になった場合、施設を 探すのが大変であるという話をよく聞く。地域密着型サービスの 目的は、介護が必要になったときに、野田市のサービスを受けら れるということが大前提であるとシルバープランに書いてある。今 年度、市民が認知症にかかって困っているという需要がどの程度 あるのか、それに対して野田市がそれを受け入れる供給能力がど の程度あるのか、来年度以降、野田市が行政として、どのように 需要と供給を考えているのか、そういう概略や見通しを参考とし て説明いただきたい。</p>
高齢者支援課長	<p>3年ごとに介護サービスの供給量を推計し、計画を立ててい る。令和2年度にこれまでの状況について、より詳しく数値化し、 サービスをどれくらい提供したらよいかということはこの審議会 に御報告し、御審議いただけたらと思う。現状、認知症の方が どのくらいいるかについては、数字を持ち合わせていないが、 要介護認定者の中に認知機能の低下が見られる方は、相当な割 合になる。5年後の2025年には、団塊の世代が75歳を超え、 後期高齢者となるので、今後、認知症の方は、より増えてくる と思う。</p> <p>特別養護老人ホームは、11施設あり、待機者は約400名程 度いる。ただし、この待機者は、できるだけ先のために一応申 込みをするなど、それぞれ状況が異なり、全ての待機者がすぐ に入所するというわけではない。新しい施設を一つ、二つ作らな ければならないかという、必ずしもそういうことではないと思 う。それについては、今後、詳しく待機者等</p>

	<p>を調べ、この審議会の中で御審議いただきたいと考えている。 これでよろしいか。</p>
矢野委員	結構です。
金本会長	待機者が 400 名ということだが、これは複数の特別養護老人ホームへの入所申込みの重複がかなりあるのか。
高齢者支援課長	重複にならないよう集計している。
金本会長	<p>現在は、施設に対するニーズが多様化し、全員が特別養護老人ホームに入所するということではなくなっている。そういうことも考え、箱ばかり作っても仕方ないので、まずは正確な市民のニーズを確認し、それに対応していくのが大切だと思う。</p> <p>午後 1 時 59 分、閉会を宣言</p>